

## クラブ定時総会の報告

### 新体制下で1年 その成果を総括

平成22年度の日本医学会系術クラブ定時総会は、6月20日(日)午後千代田区銀座「ヒューリック高松」で行われました。司会は再生委員の安井廣連先生。まず太田玲委員長が乾杯の発声と挨拶、さつそく自己紹介を兼ねて各部の昨年度の活動と今年度の方針が報告されました(別項参照)。このほか、クラブ全体の会計報告が再生委員の津谷喜一郎先生からなされ承されました。以下議事のあらましです。

### 再生委員を2人増の5人に

#### 財政基盤強化にこゝ寄付のお願い

各部の副部長  
もう1人増員を

会員から、自分が所属する部を指定できるのか、クラブ全体会に限るのか、問合せがありました。このよした場合、寄付の宛先を所属部にできます。  
わいに重要な議題としては、「日本医学会総会・シンポジウム」への参加問題があります。白矢勝一再生委員代表から、経過と課題について説明がありました。別項で詳しく説明しています。併せてご一読ください。

各部報告

泰明小前の新会場で開催

美術部 白矢 勝一

各部報告では、昨年度の催しが成功裡に終わったこと、本年度の見通し、さりに今後の課題が報告されました。  
次いで再生委員からは現在の3人に2人加えて5人体制にしたいと提案があり認められました。人事はこれからです。また各部とも部長・副部長体制になつていますが、副部長を3人とするといふことで、年会費は8000円で従来より1万円軽減しました。余裕のある会員各位にこゝ寄付を呼びかけます。すでにあります。

40人からの油絵、墨絵、素描、工芸の62点作品を趣向の異なる地下、1階、2階に展示。賛同団體の11意見を頂きました。賛成意見は、通行人に見えるワイン樽がある。独特の雰囲気がよかつた。最低出品料が安価になつたなど。反対意

## 新宿の新会場で 11月に開催

[写真部] 竹牋昌明

見は、期間が短い。地下が暗く、手探がなく危険で不便。場所が分かりにくいなど、今後の会開催へのご意見などなんなりと事務局へお寄せ下さい。

懇親会は、伝統ある全国区の美術部らしく山島から江川先生、山形から海野先生といふ家族、柄木から柴崎先生にもお越し頂き、安彦副部長、秋葉こ夫妻、飯田収、須賀、唐澤、鈴木博の諸先生にご参加頂き、会場内で膝を突き合わせて行いました。

年齢や作品のタイプは異なつても、やはり趣味を同じくする方と直接お話をされるのは、とても楽しいものです。本年の秋の58回はもむかひど、医学系総会内で行う来年春の59回での懇親会は、書道、写真部、また閲覧の余興の方々と同時に予定しております。

「多忙な時期かと存じますが是非ご参加下さい。楽しごひと時を」一緒にいたいと思っています。

ついでいました。

本年からは千代田区半蔵門の[写真専門]のカメラ博物館で毎年行なわれるようになりました。また来春は医学系総会にも希望者は出品します。是非出展」「来場下さい。

会場の大きさから作品は半切、一段掛けでした。しかし、初参加の大ベテラン佐々木正先生、女性(木村典子、山崎律子、佐久間文子と各先生)、若手(白矢泰二、白矢智晴先生)5人や再登場の首藤三朗先生の10作品により例年とは異なりながらよこ[写真展を開催できました]。

懇親会はランチタイムにて、夫妻での参加もお願いしたところ、大武秋葉先生、本村先生、矢崎先生ご夫妻にて、また部の連携として美術部の安田こ夫妻、洋樂部の秋野先生にもご出席頂きました。今年はプロジェクトでの作品投影をしながらの自己紹介で、作品と相俟つていつもより先生方のお人柄が理解し合えたようでした。遠路から休日にして参加頂き有難

若手を加え本年も賑やかに

[邦楽部] 高橋妙子

21年度は三越劇場で恒例の[邦楽祭]を11月23日に開きました。55回目で美術部に次ぐ歴史があります。出演者はきょうも見事の秋葉剣子先生が新しく参加されたほか、計14番組でした。

今年度は15番組になります。このうち初登場は秋葉先生の[紹介]で吉野剣子先生です。演田の内訳は長唄6、清元1、舞踊3、小唄2、仕舞3です。

今後の課題の一つは歌舞伎座建て替えによる劇場難で、来年はお休みします。しかし、皆さまの熱意で、再来年はこれまで通り11月23日・勤労感謝の日を再開します。すでに会場使用の仮契約を

しました。

もう一つの課題はやはり高齢化です。

今回の出演者の年齢は6月20日現在で81歳以上が7人、71歳～50歳代7人となっています。ですから80歳代前半の方々の頑張りと若手の新参加を積極的に呼びかけたいと思います。

イベント費用の個人負担は他部と比べて高額です。一心、昨年度は開催に要した諸費用と医芸術誌掲載写真のカラー負担分なども納め、その上で概算7万3000円を今年度に繰り越しました。

(二)の項

音友ホールで本年も開催へ

洋楽部 松木耀子

21年度は洋楽部恒例の「ドクターズ・ファミリーコンサート」を10月11日の日曜日に神楽坂の音楽の友ホールで開催しました。独唱や合唱、合奏など12番組出演者は会員が15人、ピアノ伴奏なしですね。また地下鉄神楽坂駅には工

どの共演者が12人、合わせて27人が参 加しました。

洋楽部の課題は、会場探しとオーケストラの維持です。銀座ヤマハホールの改築が始まつてから、コンサート会場は日本医師会、津田ホール、音楽の友と3年連続して会場が変わりました。津田ホー

ルまでは医芸術クラブのオーケストラ演奏が出来たのですが、会員数の減少に伴い、会場費負担が大きくなるため、昨年度の津田ホールを最後にオーケストラはやむなく中止になりました。今後の復活も現状では大変困難ではないかと思わ

れます。

今年度のコンサートも音楽の友ホールで10月17日(日)に開催します。同

ホールは音響、客席の点とも良くなります。幸い継続使用が可能な上、会場費も若干割引になります。欲を言えば、控室が少ないのでしょうか。会員それぞれが独立した出演ですので、もう少し余裕が欲しいですね。また地下鉄神楽坂駅には工

レベーターなどなく、会場入口も階段が急で、年配者には辛いところでしょう。

ことしの出場希望者数は、2グループと独唱、独奏の13人で、あと3～4人欲しい。これからお誘いします。

なお、今年度ですが、5月に「シラヤアートスペース」で行われた絵画や音楽を中心とした芸術祭にて、私と小川昭子先生ほか数人でヨーラスしました。また萩野仁志先生らが、軽音楽部を立ち上げ、実力を披露されました。今後、提携して行けたらと思っています。

ちなみに津田ホールの会場費は、約58万円、音楽の友は31万円です。練習会場の借用などを考慮しますと、オーケストラを実施するには30万円ほど余計にかかります。この分は他の出演者の出演料でカバーしていました。昨年の決算は赤字、6人から各2万円の「寄付をしていただき7千円ほど繰り越しました。

(二)の項

## 困難な中で文特号維持に及す

文芸部・山田 遼

文芸特集号は例年 11 月発行が続いているが、昨年度は他のイベントとの兼ね合いで 12 月発行になりました。執筆者 19 人、作品 22 編、総ページ数 204 頁。内訳は創作 5、隨筆・評論 10、詩歌（短歌・川柳含む）6 です。

頁数は長編執筆者が多かったため、それなりの分量を確保できましたが、執筆者数は厳しい状態です。ここ数年では平成 17 年度 28 人 29 編 240 頁、18 年度 18 人 19 編 148 頁、19 年度 19 人 22 編 198 頁となっています。通常号の執筆者と文芸特集号とでは、数人を除いて分れています。短編でもいいですから、積極的に参加して下さる事を望みます。

貢負担金はかつて 1 頁 7,000 円、5,000 円もしたときがあり、頁数の多い執筆者にとつてはきつい金額。今回は 1 頁 2,500 円と大幅に減額しまし

た。製造コストのダウンで可能となりました。

独立採算制なので、毎回、執筆者の数と

頁数が安定しないと、運営は困難に陥ります。幸いにして、昨年度は冬季号への

年賀広告費 40,000 円を負担したうえで、次年度への繰越金 114,083 円を計上できました。ただ発行部数を半

リ、ギリに制限したので余裕がなく、追加注文に応じられなかつたのが反省点。今

年度は 11 月発行。（ ）

機関誌発行は年間 4 回と文特号

春夏秋冬の各四季」とど、文芸特集号

の計 5 回を今年度も維持します。本号を含めすでに 2 回終了しました。イベントの関係で来年 1 月末発行の冬季号は、頁数が増え、その見返りに秋季号は少なめになるのではないか。財政上に立てる負担が大きいため、投稿規定の厳守に努めます。ご協力ください。



（前列左から敬称略）大武秋笙、小川昭子、松木耀子、太田怜、秋葉敏子、高橋妙子

（中列）竹腰昌明、小川再治、秋葉琢磨、大出篤、小口英世、鈴木啓之（上列）安井廣迪、白矢勝一、初芝登雄、林宏匡（右側枠内は所用で退席した ①山田新太郎 ②津谷喜一郎 ③佐久間文子

で、まだ医師歌壇ですが、今まで通り毎

回5首掲載を続けて行く、そして時々歌会を開催して部員の出でいの場を多くする」)どが、必要ではないかと存じます。どうあえず来年早々にでも新年歌会を企画したいと思います。

### 俳句仲間との交流を図りたい

俳句部 秋葉 琢磨

医師歌壇の常連が、どんな方なのか知りたいですね。5、6年前に福神規子さんこの努力で吟行会がありました。せめて会員多数が総会に出席したり、クラブの新年会、書道展や美術展で交流するとかはいかがでしょう。投稿者の顔写真も欲しいと思います。

では、実現していません。

出品26人 うつわ部は15人

書道部 小口 英世

事務局縮小にともない、白紙からのスタートで苦労しました。幸いベトランの先生方の素晴らしい作品が寄せられて、若い我々に力強い励ましをいただきました。出品者は会員が15人、賛助会員が11人、合わせて26人でした。

今年は少し減るようです。昨年秋季号に作品が紹介されましたが、残念ながらいくつか誤りがあり、影響したのではと思いました。

このほか、部としての報告とは別に全員が自己紹介、手薄な事務局を心配する声(大武秋篠、小川昭子先生)や、催し会場への希望(高橋妙子先生)などが寄せられました。会は午後3時半に閉会。その都度はかえつて“いいのね”の

